

伴蒿蹊 国学者、歌人、著述家。日本文学史の先駆「国文世々の跡」や、現代もなお読まれる「近世畸人伝」など。

ばんこうけい

・ ・ ・ ・ ・ 1733 = 京都三条通り高倉西入るで、近江八幡出の商家伴弥兵衛資武の長男に生まれる。

・ ・ ・ ・ ・ 1740 = 7歳：近江八幡本家で、畳表・蚊帳・傘などを扱う富商・伴庄右衛門(三世)資之の嗣養子となる。

公事方御定書1742 = **9歳**：

徳川吉宗隠居1745 = 12歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1750 = 17歳：養父が死去し、家督を相続し、伴庄右衛門(四世)を襲名。伴源太郎(二世)の娘を娶るも、

徳川吉宗没・1751 = **18歳**：

・ ・ ・ ・ ・ 1752 = 19歳：妻が死去、以後、再婚することなく、妾暉を置く。

江戸日本橋にあった出店に出向いたり、大坂の淡路町に新支店を開くなど、熱心に家業に取組むが、

大岡忠光没・1760 = **27歳**：

若年より持病もあったことから、

加賀千代句集1764 = 31歳：隣家の分家伴伝兵衛(五世)の次女いしを養女とし、縁者の子でのち五世となる婿養子資要を迎え、

久留米藩工事1768 = 35歳：_資要に家督を譲り、薙髪して蒿蹊と号する。近江商人の家訓書を代表する「主従心得草」を伴家一門に与え、
訓育者として優れていたことが分かる。洛東・岡崎に移った後、

・ ・ ・ ・ ・ 1769 = **36歳**：この頃、*洛南に定着、「近世畸人伝」を編述し始める。

田沼意次老中1772 = 39歳：

また、近江の士族高橋氏の息子を養子に迎え、養女を配した。

解体新書・1774 = 41歳：*上古からの文章の歴史を叙述し、日本文学史の先駆となる「国文世々能跡」を著した。

船蝦夷来 1778 = **45歳**：

この間、文章家として、積極的に和文の創作を指導し、友人蝶夢とともに、和文隆盛を招いた。

また古典研究者として、大和物語や万葉集に造詣を示した。

田沼意次失脚1786 = 53歳：

寛政改革始・1787 = **54歳**：

異学の禁・1790 = 57歳：*「近世畸人伝」を刊行。

歌人としては、武者小路実岳に和歌・和学を学び、師の早世後は独学ながら、小沢蘆庵らと並んで京都歌壇を代表、"寛政の四天王"の一人に数えられる。

松平定信引退1793 = 60歳：

写楽・1795 = 62歳：洛東の蓮華院近くに土地を得て新築、半町ばかり移築して、閑田廬と号するようになる。

ブートン来航・1796 = **63歳**：

ここで、「続近世畸人伝」の編纂を始め、

古事記伝・1798 = 65歳：_刊行する。

本居宣長没・1801 = 68歳：_近世後期を代表する随筆「閑田耕筆」、

青洲麻醉手術1805 = **72歳**：

バナー報復・1806 = 73歳：_没した。

文集「閑田文草」・随筆「閑田次筆」。家集「閑田詠草」のほか「歌辞要解」「国歌私言」「国歌八論評」「国歌或問」などの歌論がある。